



呼び水走行する関係者（神原町で、提供）

定着へ、自転車レーンを検証

UNCCAとうべ交通まちづくり市民会議

行政や学校に利用働き掛け

宇部市地球温暖化対策ネットワーク（溝田忠人代表、略称UNCCA）とつべ交通まちづくりの市民会議（高橋成次会長、略称つべこまち）は、このほど市道神原町草江線の一部区間に設置された自転車レーンを検証した。2015年4月の設置以降、立哨や呼び水走行、ワークショップを通じてPRしてきたが、2年たった現在の利用率は思ったほど伸びていないと総括。定着に向けて課題を洗い出すとともに、行政や学校にも働き掛けしていくとしている。

自転車レーン（法定外）があるのは、同市道の神原交差点から清水川交差点までの約900メートル。車の道の両端1メートルの位置に白線、青線、自転車マーク、矢羽（交差点）、レーン内は左側通行とする注意喚起標識を設置。交差点手前には歩道への乗り入れ口もある。レーン設置区間は車の速度が40キロに規制されている。

神原町1丁目での定点

観測によると、同市道を走行する自転車の15%がレーンを利用していた。

車と車の接触は起きていない。

環境や健康への関心が高い社会人が多く、通学での利用は学校でまちまち。聞き取りでも「安全で走りやすい」とやはり怖い」の両面があり、「区間が短くて使いにくい」という声も聞かれた。日々の天候や路面の状況なども影響している。レーン施工後、利用時の自転車

UNCCAの担当者は「法定外なのでこれまで通り歩道も利用できるが、歩行者に危険を感じさせないために低速走行となり、自転車の良さが生かされていない。レーンへの理解を求め、利用を広げ、歩道、車道とも安全で快適な環境になるよう取り組んでいきたい」としている。（古重）